

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成17年1月20日(2005.1.20)

【公開番号】特開2001-321326(P2001-321326A)

【公開日】平成13年11月20日(2001.11.20)

【出願番号】特願2001-146757(P2001-146757)

【国際特許分類第7版】

A 6 1 B 1/00

【F I】

A 6 1 B 1/00 3 1 0 C

【手続補正書】

【提出日】平成16年2月19日(2004.2.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】内視鏡及び内視鏡の硬度可変装置

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

湾曲部、軟性部を有する挿入部と、挿入部内にシースとワイヤとで構成され、シースに対して相対的にワイヤを牽引することでシースの硬度を調整して軟性部の硬度を調整する硬度調整装置と、この硬度調整装置を操作する硬度可変操作部を有し、前記硬度可変操作部による前記ワイヤの牽引ストロークが異なる複数機種の内視鏡において、

それぞれの内視鏡に設けられている硬度可変操作部の操作ストロークと同じに設定したことを特徴とする内視鏡。

【請求項2】

シースとワイヤとで構成され、シースに対して相対的にワイヤを牽引することでシースの硬度を調整して内視鏡挿入部の軟性部の硬度を調整する硬度調整装置と、この硬度調整装置を操作して前記ワイヤを牽引する硬度可変操作部を有する内視鏡の硬度可変装置であつて、

前記硬度可変操作部の操作ストロークを、硬度可変部によるワイヤの牽引ストロークが異なる内視鏡の硬度可変装置の操作ストロークと同じに設定したことを特徴とする内視鏡の硬度可変装置。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、軟性部の硬度を変化させる硬度可変手段を備えた内視鏡及び内視鏡の硬度可変装置に関する。

**【手続補正4】****【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0007**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0007】****【課題を解決するための手段】**

請求項1記載の発明は、湾曲部、軟性部を有する挿入部と、挿入部内にシースとワイヤとで構成され、シースに対して相対的にワイヤを牽引することでシースの硬度を調整して軟性部の硬度を調整する硬度調整装置と、この硬度調整装置を操作する硬度可変操作部を有し、前記硬度可変操作部による前記ワイヤの牽引ストロークが異なる複数機種の内視鏡において、

それぞれの内視鏡に設けられている硬度可変操作部の操作ストロークを同じに設定したことを特徴とする。

請求項2記載の発明は、シースとワイヤとで構成され、シースに対して相対的にワイヤを牽引することでシースの硬度を調整して内視鏡挿入部の軟性部の硬度を調整する硬度調整装置と、この硬度調整装置を操作して前記ワイヤを牽引する硬度可変操作部を有する内視鏡の硬度可変装置であって、

前記硬度可変操作部の操作ストロークを、硬度可変部によるワイヤの牽引ストロークが異なる内視鏡の硬度可変装置の操作ストロークと同じに設定したことを特徴とする。